

津市事 第 317号

平成20年10月20日

国土交通省

道路局長 金井道夫 様

三重県

津市長 松 田 直 久



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のありました「今後の道路行政についての意見・提案」について別添のとおり提出します。

事務担当

建設部事業調整室

事業調整担当

TEL 059-229-3134

FAX 059-229-3345

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

三重県 津市

道路は、ネットワーク化することにより、また、繋がってこそ、社会資本としての効果が発揮され、より利便性が向上するものです。

一方、主要交差点の渋滞や、安全対策が不十分な通学路、車同士の対向が困難な個所、市街地の踏切など交通ネックとなる個所が解消されてこそ、地域住民や中小事業者にとってのあるべき道路行政と考えます。

これらのことから、あるべき道路行政について、パブリックコメントをはじめ、国・県・市が互いに、また行政と住民が絶えずキャッチボールしながら進めていくことが必要ではないかと考えます。

また、各地域の道路については、道路規格について、その地域の状況に応じた規格で整備するなどの方法により、事業コストの縮減、事業期間の短縮が図れ、整備効果の早期発現がなされると考えます。

さらに、幹線道路や生活道路が有するそれぞれの機能を充分効果あるものとするため、既存道路の部分的改良が整備の即効性を生み出す場合もあり、これも有効な道路整備の一つの手法と考えます。

道路整備には膨大な費用が必要であり、事業執行に当たっては無駄を排除するのは当然のこととして、道路特定財源が一般財源化されることとなりましたが、自動車ユーザーから徴収する税という性格からも、一定分については必ず道路整備に充当するような仕組みの検討を願うものです。

②－１地域の現状と抱える課題

三重県 津市

○現状

●本市の幹線道路は、南北軸として伊勢自動車道、国道２３号、建設中の中勢バイパス、国道３０６号、県道久居河芸線、広域農道グリーンロードが走り、東西には国道１６３号、国道１６５号、国道３６８号、県道津関線、県道津芸濃大山田線、県道久居美杉線などが走って東西軸を形成している。

●平成１８年の合併により、山間部から海岸部まで広大な面積になるとともに、個性や魅力を持つ多様な地域資源を有することになった。

○課題

● 県都としての都市機能の集積や、中京圏、近畿圏の結節点に位置する地理的条件を活かし、これらの多様な地域資源を活かした広域的な交流や地域間連携を図る事が重要である。

● そのための、市内外との連携を促進する広域連携軸の形成をはじめ、市民の生活を支える道路の整備など、円滑な道路ネットワークの構築を図っていくことが求められている。

● 市内では、朝夕を中心に、国道２３号など慢性的な交通渋滞が起こっており、広域的な交通需要に対応した円滑な交通を確保することが課題となっている。

②－２地域の目指すべき将来像

三重県 津市

総合的な交通ネットワークの形成、円滑な道路交通の実現をめざし、本県の北勢地域・南勢地域、さらには中部圏や関西圏とも連携する広域道路ネットワークの充実をめざす一方、市域における各地域間の移動を円滑化し、すべての市民が都市的サービスを楽しみ、本市の生活圏域・経済圏域の一体性を高めるため、道路交通網の形成等を通じて、環状放射型の道路交通体系の確立をめざします。

また、市民の日常生活を支える生活道路についても、安全性の確保や利便性の向上に取り組むとともに、バリアフリー化等によってすべての人に優しい道路空間の創造をめざします。

③ 道路施策の重点事項

三重県 津市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
道路整備の計画的な推進 1. 体系的な道路網の整備 (1) 広域連携軸の形成	伊勢自動車道・国道23号・中勢バイパス 国道163号・国道165号・国道368号・主要県道を市の骨格を形成する広域幹線道路として関係機関に要請するとともに、必要な地元調整等を図りながら整備する。	圏域内外からの人や物を集中、あるいは分散させていくための、円滑かつ利便性の向上が期待される。特に中勢バイパスについては、全線開通による国道23号の渋滞解消、広域連携・地域間交流の促進、災害時の代替路対策や地域開発の促進などの面での効果を期待している。	
(2) 域内連携軸の強化	広域連携軸を補完する役割を担う道路として、グリーンロード・津関線・久居美杉線・久居停車場津線・津久居線などの整備により、中山間部や農村部等から都市部及び各地域アクセスやネットワークの強化等を図る。	合併により有することとなった多様な地域資源活かすとともに、各地域が有する機能の恩恵を市民が等しく享受するため、各地域間の有機的な連携と交流へ結びつけていく効果を期待している。特に、県道津久居線や久居停車場津線は都心軸と中勢バイパス・国道165号を経て副都心軸を結び、また、県道久居美杉線は市街地と関西方面に繋がる連携・交流に欠かせない路線である。	

(3) 生活基盤道路の整備	域内連携軸を補完し、地域間の連携と交流を高める中心的な生活基盤道路の整備推進を図る。	人や物を移動させるための交通機能の強化をはじめ、都市環境機能、都市防災機能、市街地形成機能を有する道路としての効果が期待できる。	
(4) 通過交通の抑制	都市部及びその周辺に集中する交通を適正に配分するため、都市環状道路などの形成を図る。	都市部への不要な通過交通を抑制することにより、交通の円滑化と生活道路の安全性の確保が期待できる。特に河芸町島崎町線については、海岸整備事業と整合のとれた整備を進め、国道23号の渋滞による生活道路への交通の流入抑制、地場産業の振興や災害・防災対策としての高い効果が期待できる。	
2. 生活道路の整備	通行に支障のある狭隘道路の拡幅・整備を進めるとともに、交通事故防止や通学路の安全確保等を進める。 また、バリアフリー化やユニバーサルデザインを取り入れた道路環境の整備、ゆとりと潤いのある歩行者・自転車空間の確保を図る。 このほか、災害時や緊急車両の進入対策としてのなどの道路幅員の確保や行き止まり道路の解消、定期的な橋りょうの点検などによる計画的な補強などを図る。	安全・安心な道路を確保するとともに、身近な生活空間において、日常の移動を円滑にし、便利で、快適な日常生活が可能となる効果が期待できる。	